

ゴルフを持続可能にするために ～コースとプレイヤーの相互理解から

サステナブルレポート No.6

2025年8月4日
作成者:H.K

出典:pixabay

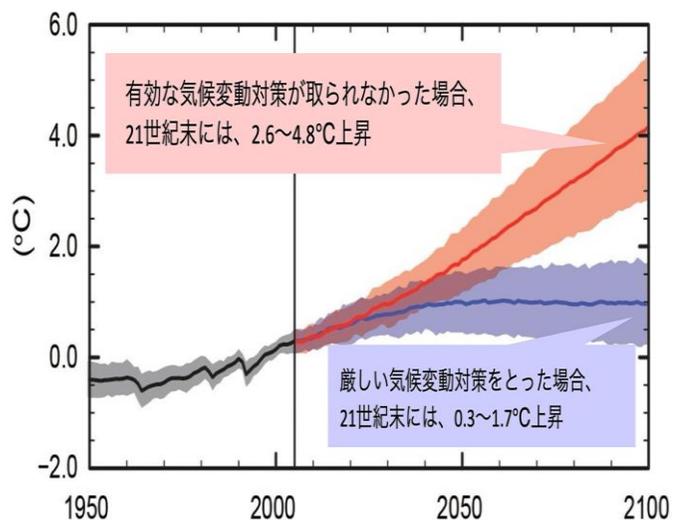


ゴルフ業界で進むSDGsと環境保全

■ ゴルフ場が地球温暖化防止に役立つ背景

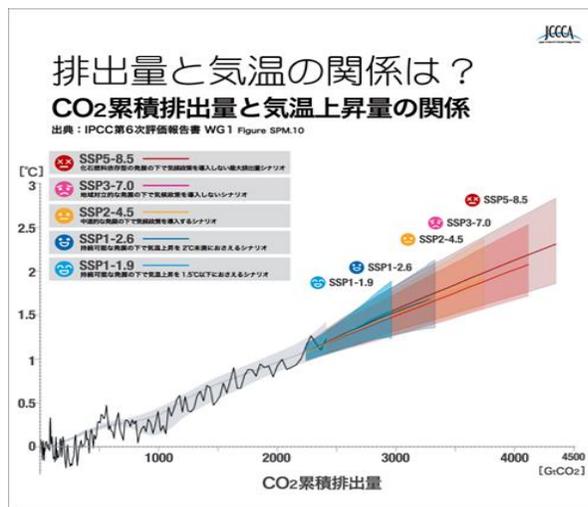
- 地球全体の気温上昇など気候変動を抑制することで、持続可能な地球環境を守るため、政府は2030年までに温室効果ガスを46%削減する目標を掲げ、CO₂排出量と森林の吸収量を差し引き実質的にゼロベースにする「カーボンニュートラル」を2050年までに目指すと表明しました。
- 世界には様々なスポーツがありますが、ゴルフは広大な自然を相手にする緑地で行うスポーツです。このような緑地は、CO₂の吸収に寄与するため、適切に管理されることで環境改善に役立つ可能性があります。
- ゴルフコース内の緑地帯を計画的に保全する事で、森林の荒廃を防ぎCO₂の吸収力を高めていると言えます。

■ 世界の平均地上気温の変化



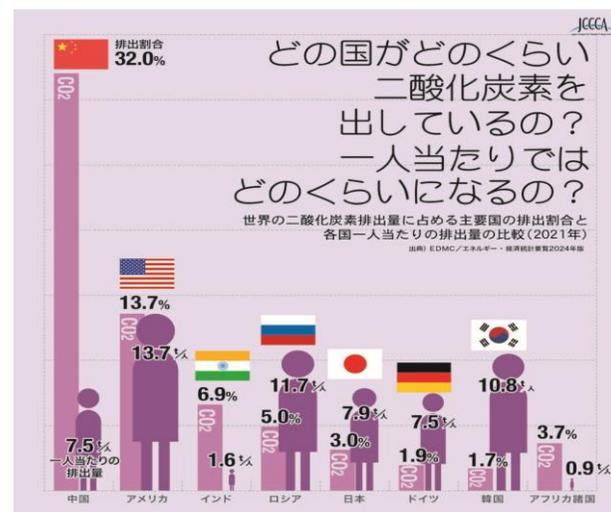
出典: IPCC AR5 WGI FIGURE SPM.7

■ CO₂累積排出量と気温上昇の関係



出典: IPCC第6次評価報告書 WG1

■ 各国の1人当たりの排出量の比較(2021年)



出典: EDMC/エネルギー・経済統計要覧2024年版

ゴルフ場の緑が営む光合成が大気の浄化、地球温暖化防止に大きく寄与

ゴルフ場はCO2削減に貢献

■ ゴルフ場は温暖化防止に貢献している

- ゴルフ場は、広大な芝地が主役であるため、一面緑の芝地のみに覆われていると思われがちですが、芝地に加えて樹林地や池などの植生が共生する緑地生態系となっています。しかもこれら緑は常に植生管理(手入れ)がなされ、光合成効率が高い緑地帯です。
- 国内のゴルフ場森林がCO2を吸収固定する量は年間330万トン、火力発電が排出するCO2の量に換算すれば、164.1万户の標準世帯が消費する年間電力量に相当します。
- ゴルフ場は、緑地生態系が成立するに相応しい広大な面積規模を有し、緑の育成管理がきめ細くくなされているため、CO2吸収による大気の浄化、温暖化防止に加えて種の多様性の保全、治水、防災機能にも優れています。

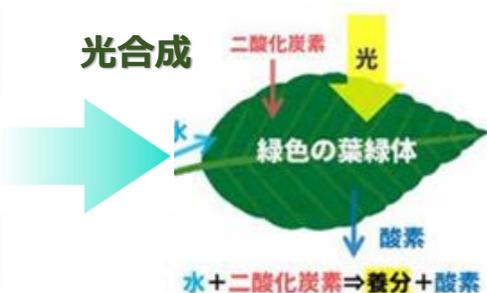
■ 全国のゴルフ場における年間有機物生産量から算出

表1 全国のゴルフ場における年間植生別生産量、CO2固定量等の概算値

ゴルフ場数	植生分類	総面積万ha	植生別生産量万ton	CO2固定量万ton	O2発生量万ton	蒸発散水量億ton
2,123	芝地	11.6	111.2	163.2	118.9	41.7
	森林	7.7	113.5	166.6	121.4	42.6
	合計	19.3	224.7	329.8	240.4	84.3



出典：概算値は筆者算出

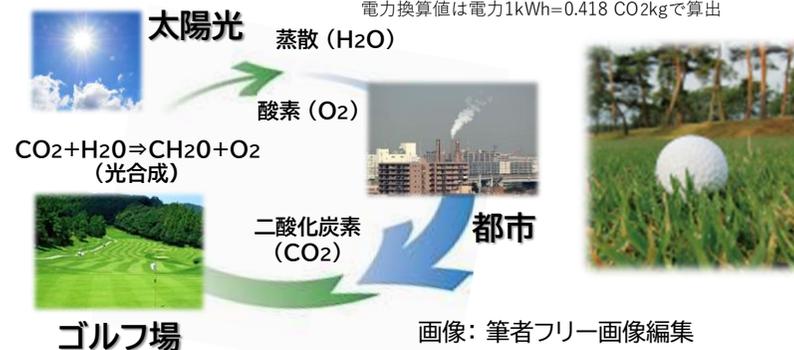


■ ゴルフ場は大気の浄化、温暖化防止に貢献

表2 大気の浄化に寄与する具体例

吸気CO2 電力 (億kWh)	電力換算値 消費世帯 (万户)	発生O2 吸気人口 万人
39.0	81.2	432.8
39.9	82.9	441.9
78.9	164.1	874.7

電力換算値は電力1kWh=0.418 CO2kgで算出



画像：筆者フリー画像編集

自然環境の保全と調和したゴルフ場では、持続可能な管理が不可欠です

ゴルフを持続可能にするために

■ サステナブルにゴルフ？ ゴルフ場とゴルファーに求められること

- 近年のゴルフ場では芝刈りや散水を必要としないウェストエリア(waste area=荒れ果てたという意味)を設けることで、エコとデザインを両立しています。又、ウェストエリアには花粉媒介者となる昆虫なども生息し、生物多様性にも繋がっています。
- 木の根元の芝を無くし管理面積を減らすことにより、水の使用量とメンテナンス時間を制限したり、伐採した木をウッドチップとして再利用したり、近年国内のコースでも循環できる仕組みが加速しています。
- ゴルファー自身も環境意識を高め、自然を大切にする行動を取ることが求められます。ディボットやボールマークの補修は、コース管理の負担が軽減され省エネにも繋がります。 持続可能性のある未来を、ゴルフを愛するわれわれ皆で、考えていきたいですね。

■ ゴルフ場は様々な工夫でサステナブルを推進

コース内にウェストエリアを設ける



景観やコースの戦略性だけがその目的ではない

画像: 筆者フリー画像編集

木の根元の芝を削減、ウッドチップの再利用



■ ゴルフプレイヤーの、サステナブルなアクション

明日からできるプレイヤーのアクション



コース管理の負担も軽減

画像: 筆者フリー画像編集

コースとプレイヤーの相互理解が進めば、ゴルフはもっとサステナブルにできる

■ 参照・引用資料

- ICPP, 「第5次報告書」, 2014年12月 閲覧 (https://www.env.go.jp/earth/ipcc/5th/pdf/ar5_wg2_overview_presentation.pdf)
- ICPP, 「第6次報告書」, 2021年08月 閲覧 (<https://www.env.go.jp/content/000116424.pdf>)
- 全国地球温暖化防止活動推進センター, EDMC/エネルギー, 【経済統計要覧2024年版】, 2024年04月23日閲覧 (<https://www.jcca.org/download/66928>)
- 林野庁, 二酸化炭素の吸収・固定量「見える化」計算シート, 2021年10月 閲覧 (<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/kyushuryosantei.html>)

本レポートに関するお問い合わせはこちらへ

株式会社グーン

〒231-0023

神奈川県横浜市中区山下町2番地 10F

TEL: 045-228-8960

担当: ブルーエコノミー研究所 大木

<http://www.guun.co.jp/>



- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。